



「第23回東京ふるさと斜里会に寄せて」

斜里町長 馬場 隆



東京ふるさと斜里会の皆さま、如何お過ごしでしょうか。

今年の夏の北海道は、度重なる台風の上陸により不安定な天候が続いたことで、各地で大雨による河川の氾濫など災害に見舞われました。被災された皆様に改めてお見舞いを申し上げるとともに、各地の一日も早い復旧を願っております。斜里町においても降り続く雨の影響により、各所に被害が及ぶなど大きな爪痕が残りましたが、人的被害はなく、大雨の影響を最小限に食い止められ安堵しているところではあります。

さて、斜里町の近況についてお伝えいたします。

今年の産業の状況ですが、農業は、春先の降雪や強風に見舞われたものの、例年どおり融雪が進み、農作業も早く始まりました。しかし、8月中旬以降、道内に連続して上陸した台風による影響を受け、馬鈴しょやてんさいなど、今後の収量減が懸念される場所があります。また、漁業については、8月末現在で漁獲量は前年比132.3%と上回り、9月からもさけ・ますが順調に水揚げが行われていることから、これから本格化する漁に期待をしているところでもあります。観光については、8月末までの総入込数は前年比0.9%の減少となっている中、外国人観光客は20.6%の伸びを示しており、全体の下支えをするように増加傾向となっております。今後、秋以降の天候状況が穏やかに推移し、斜里町産業全体が良い結果となるよう期待しているところでもあります。

また、街並みの変化としては、今年4月、改築工事を進めていた新消防署庁舎の事務所棟が完成しました。無線等のシステムが高機能化されたことで、迅速かつ正確に情報伝達が図れるようになり、よりの確な緊急対応が可能となりました。

さらに、昨年より「テレワーク事業」の推進に向けた取り組みを行っております。「テレワーク」とは、情報通信技術を活用して場所や時間にとらわれず、働く人の状況に合わせた柔軟な働き方のことで、様々な分野へ多岐にわたる効果が期待されています。テレワーク事業は「斜里町まち・ひと・しごと創生総合戦略」に位置付けており、地域の活性化に繋がるよう、現在、首都圏の企業などと連携し取り組みを進めているところではあります。

今後もふるさとを想う斜里会会員の皆さまのあたたかいご支援とご協力をお願い申し上げますとともに、東京ふるさと斜里会の益々のご発展と会員の皆さまのご多幸をご祈念申し上げ、ご挨拶いたします。



もっと視野を広げた 活動で！
限りなく 将来への 会発展を 願って！！

会長 吉野 躬行
Yoshino Miyuki

会員の皆様、如何お過ごしでしょうか？ 健康長寿で、益々ご健勝のこととお察しいたします。戦後71年の今年、オバマ大統領の歴史的な広島訪問が実現し、今後より一層の核廃絶の機運が高まることを願ってやみません。

人類平和の祭典であるオリンピック、パラリンピックが南米リオデジャネイロで開催されました。数々の熱戦が繰り広げられ、連日の日本勝利に歓喜しました。会員の皆さんも感動した熱戦は多々あることと思いますが、銀メダルに輝いた陸上・男子400リレーや体操男子の金メダルも実に感動的でした。（個人的には Never Give-Up の精神力で、2時間49分の大激戦の末、錦織圭選手が過去に9戦して1勝しか出来なかった北京五輪シングルス金メダリストスペインのラファエル・ナダル選手に勝った試合や車いす女子テニスの上地結衣選手の“やっとなつたブロンズメダル”に勇気と感動をもらいました。）

さて、年に一度、東京近郊在住の皆様方とふるさと斜里に縁のある方々との交流の場として開催して参りました「東京ふるさと斜里会」も今年で23回目を迎えることが出来ました。これも一重に会員皆様方、そして、ふるさと斜里町役場をはじめ、協同組合、協会団体様他からの格別なご理解とご支援のお陰でこまごまできて来ました。改めて心より感謝を申し上げます。

毎年、会員の高齢化が益々進む中で、“東京ふるさと斜里会の活動”を健全な形で活動を続ける為に東京ふるさと斜里会の活動も、もっと広い視野での活動が必要な時がやってきました。

一人でも多くの会員参加を呼びかける為に、斜里町役場のご支援を得て、“事前案内はがき”の郵送、役員全員で手分けしての“電話ローラ作戦”も同時に実施しましたが結果は実に惨憺たるもので、現実的には、会員の皆さんが想像以上に高齢化が進んでいることを実感させられた次第です。会員の家族の皆様参加を含めて役員全員でご案内しましたが、なかなか参加までのお誘いには至らなかったと言うのが実情です。

何の行動を起こさないよりも何かの行動を起こして次なるステップへの飛躍を期す。Better than nothing という言葉がありますが、しかし、現状の会員の Mass だけを頼っていて、果たして将来の東京ふるさと斜里会の発展はあり得るのだろうか？東京サイドだけの活動では限りがあることを実感し始めていたころ、実にタイムリーに嬉しい News が斜里町役場から入りました。それは、馬場町長のご挨拶にも述べられているように、昨年より斜里町が積極的に取り組みを進めている「テレワーク事業」による首都圏の企業との連携効果で“斜里町と首都圏”との“ひと”との繋がりです。今回、「テレワーク」の推進に参加されている方々の輪の広がり、斜里町からも首都圏からも参加いただけることとなりました。これを契機に斜里町と首都圏とを繋ぐ架け橋として、郷里斜里町の発展に寄与できることを願う次第です。

今年の東京ふるさと斜里会は極端な活動資金不足の中にありますが皆様のご理解とご支援により、尚も、会員増大の為に Try & Error を繰り返しながら、会員家族の取り込みを行っている最中です。

また、今回は、お楽しみ抽選会“司会の達人”と言われてきたレジェンドが目下療養中の為に、次世代の役員に“技”を継承し、新たに役員3名をお迎えして総勢17名の役員体制としました。これにより一層の“おもてなし”で、皆様をお迎えできるものと確信しております。皆様方との“絆”をより一層強くして、“東京ふるさと斜里会”発展のために今後とも尽力する覚悟です。

会員の皆さまの今後益々のご健勝とご多幸をご祈念し、ご挨拶いたします。



平成 28 年度「東京ふるさと斜里会」事務局活動報告

事務局長 土橋 幸博

会員の皆様には、益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。

年に一度、東京近郊在住の会員の皆様とふるさと斜里にご縁のある方々との交流の場として開催して参りました「東京ふるさと斜里会」も今年で 23 年目を迎えることが出来ました。

これも一重に会員皆様方の温かいご理解とふるさと斜里町の絶大なるご支援の賜と熱く感謝している次第です。

今年の事務局活動報告として、下記内容の他に総会・懇親会準備運営費削減の為、いろいろ考え会議室を格安のレンタルスペースにしました。また、今年はしゃり会名司会役員が参加できないため、若手で分科会を2度開催し、より楽しい抽選会にするため検討を重ねてまいりました。他にはメール・電話等で役員関係者への情報共有、各来賓宛に総会案内状の発送など行いました。

「東京ふるさと斜里会」は他ふるさと会関係の総会・イベント等に参加しながら会の活性化に努めており、私も会の一員として道産子魂をもって、会員の皆様及び斜里町との絆をより一層深めていけるように色々な活動に参加させて頂き、常に元気を頂いております。今年も元気な皆様にお会いすることが出来て嬉しい限りです。

新しい会員の方を募集しております！斜里町に關係する関東近郊にお住いの方を是非ご紹介ください。ご連絡は事務局土橋、又は斜里町役場までお願いいたします。

平成 28 年度の事務局活動報告及び収支報告をご報告いたします。

●活動報告

日時	活動内容	場所	備考
4月16日	東京別海ふるさと会 総会懇親会参加	メトロポリタンホテル	
4月23日	北海道ふるさと会連合会 総会懇親会参加	喜山倶楽部	
5月15日	平成27年度会計監査実施	アルカディア市ヶ谷	
5月22日	東京らうす会 総会懇親会参加	渋谷東武ホテル	
6月18日	第1回役員会開催(監査報告及び決算報告)	四ツ谷三丁目レンタルスペース	
7月9日	オホーツクふるさと会連合会親睦ホーリング大会参加	東京ポートホテル	個人参加
9月17日	第2回役員会開催	茅場町レンタルスペース	
9月24日	根室の旬を楽しむ会(さんま祭り)参加	東京ハーベキューガーデン	個人参加
9月29日～10月2日	北海道フェアin代々木応援(北海道ふるさと会連合会)	代々木公園	
10月15日	第3回役員会開催	アルカディア市ヶ谷	

●収支報告

収入の部		支出の部	
前期繰越金	133,641	総会懇親会費	774,763
総会費収入	497,420	会議費・事務費	164,736
雑収入	386,580	交際費	51,100
斜里町負担金	100,000	他ふるさと会参加費	84,000
受取利息	4	次期繰越金	43,046
	1,117,645		1,117,645



ふるさとへの想い

澤目未樹

18歳までの日々を過ごした斜里町を離れ、早いもので12年もの年月が過ぎようとしています。本当に早いものです。大きな期待とキラキラして見えた都会への憧れを抱いて上京した東京も、今ではすっかり生活の場となりました。

斜里町立朝日小学校の器楽クラブでクラリネットという楽器と出会い、まさかそれを仕事にしていこうとは当時は少しも思っていませんでした。たくさんの巡り合わせとご縁があり今こうして音楽を仕事として活動しています。

クラリネットというのはあの童謡にもなっている、木でできていて黒くてリコーダーのような縦型の楽器です。木のぬくもりを感じる暖かい音色が癒しを与えてくれます。現在はそのクラリネット4本でアンサンブルグループを組み活動しています。

仕事柄、様々な地域にお招き頂き演奏をさせて頂く機会がありましたが、その度に地元斜里町の「ゆめホール」でいつか演奏したい！という想いが強くなっていたので、5年前その想いが叶ったときは嬉しくて飛び上がる想いでした。本当に多くの方々のご尽力や家族の協力無くしては実現できなかった斜里町でのコンサート。一緒に演奏したメンバーたちが斜里は本当に素敵な所だと感動してくれたのも私には嬉しい限りでした。音楽を通

して地元の方々、お世話になった方々とつながれた時間は私にとって最高に思い出に残る時間となりました。また、昨年も網走市のふるさとアーティストフェスティバルにお招き頂き、そこからのご縁で今回「東京ふるさと斜里会」の皆様にもご挨拶させて頂くことができました。

コンサートなど多くのかたの前で自己紹介をさせて頂くことも多いですが、出身地の話をすると皆さんとても興味深くお話を聞いて下さいます。最近では、知床が世界遺産になったためでしょうか、斜里町のお話をすると「私も斜里町に行ったことがあるわ」と声をかけて下さるかたがいらして、私もとても嬉しいです。「豊かな自然」、「美味しい海の幸、山の幸」、「暖かい人々」。そこに住んでいた頃には感じる事の無かった1つ1つがとても貴重なものなのだということを今は切に感じています。

残念ながらゆっくりと斜里町に帰省できる時間が今は限られています。これからも私の大切な場所、斜里町に今まで培ってきた音楽を通して少しでも何か貢献できることがあれば光栄です。また、私自身もそれを励みに今後も音楽活動を広げていきたいと思っています。



自己紹介

斜里町役場企画総務課企画係
主事 東 優里

会報誌の貴重なスペースをいただきましたので、僭越ながら自己紹介をさせていただきます。

私が斜里町に引っ越してきたのは、平成21年4月、斜里町役場への入庁がきっかけです。

北海道北見市出身で、学生時代は札幌市で過ごし、英文学を専攻するも毎日音楽活動に明け暮れ、外出するよりギターを弾くかパソコンと向かい合っている時間が好きなインドアな人間でした。

就職を機に、漠然と道東に戻りたいという想いがあり、中でも斜里町を選んだ一番の理由は、広大な大自然を有する地域的な魅力に惹かれたからです。

入庁してからは、100平方メートル運動や知床国立公園内外の野生動物対策など自然保護行政に携わり、初めての部署異動で、公益財団法人知床財団への出向を命じられました。

知床財団は、1988年に斜里町が設立し、ウトロと羅臼を拠点に、知床国立公園の実働部隊として、環境教育や普及啓発、野生生物の保護管理・調査研究、森づくりなどを行ってきた団体です。

ウトロに住まいを移し、知床の大自然が職場となった財団での3年間は、知床・斜里町の魅力を最大限に感じる事が出来る最高の環境でした。

通勤時には、朝日に照らされキラキラと波立つオホーツク海を横目に、雄大な知床連山に向かって車を走らせ、仕事帰りには、プユニ岬から望む夕陽が一日の疲れを忘れさせてくれます。

また、業務では、森づくりのための苗木の育成や、エゾシカからの被害を防ぐため防鹿柵を設置したり、また、ヒグマと人との軋轢対策のため、追い払い対応などを担いました。知床はヒグマが高い密度で生息しているため、森の中での作業中、苗を育てる畑の手入れをしていると、近くでヒグマが歩いている、というような光景は日常茶飯事です。そのため、身を守る備えもしなければなりません、森の中では「ホイホイ！」と声を出し、ヒグマに対してこちらの存在を知らせることで、未然に遭遇を防ぐことが大切です。

知床は人と自然や野生動物との距離が非常に近い場所です。お互いが安心して暮らすためには、丁度良い距離感や係わり方があるということをも身を持って経験し、また大自然にどっぷりと浸れたことで、インドアだった学生時代からは考えられないくらいアウトドアな生活を送り、知床ファンの一人になっていることに自分でも驚いています。

現在は、本庁舎に戻り、国立公園内外を駆け回っていた頃と比べて机に座っている時間が長くなり、知床の森が恋しくなることもあります。

これからも、まだまだ気付いていない斜里町の魅力をさらに深く探っていきたいと考えています。

「東京マラソン」への挑戦

平成 27 年 2 月 22 日 9 時 10 分 東京マラソンスタート

・・・・・・・・体 験 録・・・・・・・・

東京ふるさと斜里会 理事 阿部 和雄



“銀座目抜き通りを駆け抜ける。そして浅草雷門を左に見て折り返し地点までは行く”

東京マラソンに応募して“まさかの当選”をした時の目標でした。

3 万 5 千人以上が走る東京フルマラソン。人気は高く当選倍率は 10 倍以上、私も東京にいる以上はこのお祭りに参加しない手はないと思い応募しました。勿論初フルマラソンです。

10 月に当選が決まってから本番まで約 5 ヶ月間。まずはジョギングをしてみました。普段の運動はゴルフくらいで走ることはしておりません。15 分も走ると足がパンパンになり全く駄目です。

仕方なく近くのスポーツジムに通うことにしました。トレーナーから運動メニューを決めてもらい会社帰りの 21 時から 22 時半までの時間にトレーニング。

長い距離（時間）を走るには体のバランスが大事とのことで、ストレッチや筋トレで体幹を鍛えながら少しず

づランニングを始めました。

年末年始に九州に帰った（現在単身赴任中で、自宅は福岡市）時も近くの公園で毎日 10 キロくらいは走りました。私の目標は“無理をしないで東京マラソンを楽しむ！”でしたので、自分のペースをどう掴むかでした。

いよいよ本番当日、受付にも時間がかかるのでスタート 2 時間前には行かなければなりません。スタート地点の東京都庁前はランナーや係員でごった返しておりました。

9 時 10 分気温 7 度と結構寒い中号砲が鳴りランナーはスタート。私はタイムの遅いゾーンでしたので号砲から約 17 分遅れでようやくスタートラインのゲートを通過できました。



沿道の観衆からの声援も多く、ついついハイテンションになってきます。しばらくは緩い下り坂なので快調に走れます。10 キロ過ぎたあたりでトイレに行きたくなり沿道脇の仮設トイレに向かいますが長蛇の列。でも次も同じとのことで列に並ぶしかありません。待つこと 15 分！こ

れは計算違い！

東京タワーを抜け品川を折り返し
いよいよ銀座目抜き通りです。昼の銀
座の道路の真ん中を、両脇に華やかな
ビル群を見ながら走るの爽快です。
沿道は溢れんばかりの観衆で、「頑張
れー！頑張れー！」と大きな声援。ま
さにこれはお祭りです。

そして浅草雷門（神谷バー）、ここ
は中間点を超えて 27.8 キロの折り返
し地点。

目標は達成だ。



脚も何とか大丈夫！

時々ストレッチをしながら前へ前へ。

東京スカイツリーもクリアー。



しかし、ここで落とし穴。

ほぼ 5 k m 毎にポイント通過制限タ
イムが設定されており、30 k m 地点の
通過制限タイムを調べていなかった
私は不覚にも制限時間にわずか 2 分
足りずここで終了。

完走は出来ませんでした。楽しく
走れて大満足！いい記念になりました。

丈夫な体に産んでくれた親に感謝
すると共に、自然あふれる斜里町で生
まれ育ち、自然相手に遊んだこの身体
とこれからも上手に付き合っていき
ます。(S 2 6 . 2 生)

私のふるさとのお話し

三井出身 門脇 静雄

最初に自己紹介的に話を始めますと、私は三井に生まれ、その後斜里町豊倉に転居し、小学から中学の2年生の2学期までが斜里小・中学校で、その後、生まれた三井に戻り、中学校は三井中学の卒業であります。

斜里小・中学校でも沢山の思い出がございますが、この度1年3カ月しか居なかった三井中学のクラス会の案内状が本年の5月に届いたのでございます。(^^)/

幹事は斜里に残っている方々で、7月某日にウトロに集合とのことで、早速出席の葉書を出し楽しみにしていたところ、今度は三井中学、斜里高校と一緒にあった友達Kさんから電話がございまして、「6月に東京に行くから、同級生4人で一杯飲もう。」とのお話でした。

「うれしい話は続くものだなー」と喜び勇んで、東京駅のそばの飲食店に集まったのですが、まず、電話のKさんともう1人の友人のOさんに会い、昔の面影の残る友人はすぐに判ったのでございますが、友人は私を見て怪訝な顔をされたのです。

実は、友人と50年ぶりに会ったのですが、その間に私は体重が50キロから75キロと50%増、髪の本数は〇〇%減と大きく変わっていたのであります。

そのあとは、現状報告から始まり大いに盛り上がったのですが、本番のクラス会ではまず自己紹介から始めないといけないと心に刻んだ次第でございます。

集合当日は女満別空港からKさんの車に同乗させてもらい一路ウトロに着き、お会いした仲間は姿は歳を経ておりますが、気持ちは時の経過を忘れ、すぐに昔に帰り大はしゃぎでございました。

初めに挨拶をしながら自己紹介をしますと、男性からは「太ったなー」の声がございましたが、女性からは流石に気使い良く、私が傷つくような言葉はございませんでした。

それから大宴会と全員での2次会が終わり、温泉に入り爆睡でその日は終了し、翌日は知床5湖の見物でございました。

しれとこ5湖は何回か行っておりますが、広大な笹の平原と遠望される知床連山の雄姿を木道から見るとは、何度見ましても素晴らしいものでございます。

帰路、昔は上からほんの一部しか見えなかったオシンコシンの滝を正面から見学し、おおいに騒ぎながら帰りましたが、この様な楽しい時間を過ごさせてくださいました幹事の皆さんに感謝する二日間でございます。

最後に、室生犀星の詩に「ふるさは遠きにありて思ふもの、そして悲しくうたふもの」とありますが、「ふるさは近きにありても思うもの、そして楽しくうたふもの」でも良いのではないのでしょうか。また行きまーす！ (前列左端：筆者)



新天地を北へと目指した先祖たち

福水（旧船津）由美子

斜里高等学校を卒業後、横浜に来てから早や 45 年。今、私は私立大学の事務職員として働いていますが、私がいつも話題にするので、同じ部署で「北海道斜里町・知床半島」の名を知らない人はいません。「斜里町」を我がふるさとと言えることは、最高に自慢出来ることであり、心から誇りに思っています。

この 5 月に斜里高等学校 3 年 E 組（昭和 46 年 3 月卒）のクラス会が地元で行われ斜里に帰って来ました。駅名が「しれとこ斜里駅」となり、自宅前の国道の道なりも変わり、あんなに賑わっていた商店街も昔の面影がなくなっていました。変わらないものが確かにありました。それは、父なる斜里岳と母なる海別岳の雄姿です。斜里橋を渡って町に着いた時にはまだかかっていた曇も、見る間に吹き払われて、私を歓迎してくれました。

変わらないもののもう一つは、オホーツクの海です。歩いて、歩いて辿りつけない砂浜だったという小学生の頃の思い出がありますが、その前浜にも今回はあつと言う間に行くことができました。元の役場の建物の前に立ち、この屋根の上に青い旗が翻っていたら泳いで良く、赤い旗だったら泳いではいけないという合図だったことも懐かしく思い出しました。

また、かねてより夢見ていた斜里中学校の同期会（昭和 43 年 3 月卒）も、昨年秋、札幌で開くことができました。当時は近隣の中学校との統合が毎年のようにあり、斜里小学校 6 年生の時は、松、竹、梅、桜組の 4 クラスだったのが、中学 1 年生の時に川上を統合して 5 クラスに、2 年生の時は以久科、富士を統合して 7 クラスに、3 年生の時には三井、越川を統合して 8 クラスという超マンモス校になりました。同期会開催にあたって、その 8 クラスの担当幹事の方々と共に、まずは名簿作成のために消息探しから始めました。結果、約 80%の方と連絡が付き、なんと 66 名の参加者を見ることができました。48 年ぶりに会う人もいて当日は大変な盛り上がりようでした。来年には 2 回目を地元斜里でおこなうことになっています。

ところで、私の父の両親は岡山県出身で、母方は岐阜県と徳島県の出身です。それぞれ明治 30 年代頃に北海道に渡りました。それから約 120 年経って 3 世代後の自分が再び本州に来てこの地で一生を終えるであろうことを考える時、感慨深いものがあります。以前調べた父方の先祖は約 400 年前に現在私の住んでいる神奈川県三浦半島から岡山県に移り住んだそうで、なんとも不思議な巡り合わせを感じます。

北海道人には「開拓者精神」の DNA が流れているとは良く言われることです。私たちの先祖は、同じ新天地でも南には向かわずに極寒の地、北を目指しました。そしてようやく北海道に着いてからも更に北に向かい、選んだ土地がオホーツク海に面した斜里という町でありました。その後もどれほどの苦労をしたことでしょうか。

自分の中に新し物好きな面を見出す時に、そこに先祖の DNA を感じます。そしてこれから数十年の残された人生で、時に困難にぶつかることがあっても、14 歳の幼かった祖母が、徳島県から斜里への長い道のりを、厳寒の時期に幼い弟妹の面倒を見ながら歩き続けたことを思い出し勇気が与えられます。

世界自然遺産に登録された知床半島を有する斜里町が我がふるさとであることに、心から万歳！



「この 5 月 クラス会で帰省した折り女満別メルヘンの丘で」



前東家のルーツ

前東 豊

去る、平成 27 年 3 月 20 日に放映された NHK の番組「ファミリーヒストリースペシャル版」で、「前東家のルーツ」が取り上げられました。東亜電波工業㈱の起業に奔走した 前東計男^{まえばしけいお}も登場人物の一人です。

取り上げられるにいたったきっかけは、平成 23 年、奈良県十津川村で発生した台風による災害でした。豪雨で土砂崩れが発生し、道路が寸断され、自衛隊の救援部隊が到着に手間取り、救出は難航をきわめ 13 名の死者を出すに至りました。

その後、村役場で復旧工事を進めるに当り、地主の確認・承認を得る必要があることから 120 年前の土地の登記簿謄本を調べたところ、前東常松の名義であることが判明しました。そこで村役場は、曾孫にあたる正次（私の従弟の息子）に、現地での境界線確認に立ち会うよう要請をしてきました。しかし、正次は何らかの事情で現地に行くことができず、立ち会わずに境界線承諾の連絡をしたそうです。

その後、正次は、NHK の番組「ファミリーヒストリースペシャル版」のことを知り、前東家が奈良県十津川村から北海道の新十津川村へ移住したことなどを含めてメールで応募したところ、1,600 件の中から選ばれ「前東家のルーツ」として取り上げられました。NHK の放送内容を中心に、他の資料による情報も加えて、ご紹介いたします。

近畿最後の秘境

十津川村は崖に貼り付くように民家が点在し、周囲に山が迫り、空は狭く、「近畿最後の秘境」と呼ばれていた。

現在人口 3,600 人。広さは奈良県の 1/5、東京都 23 区分とほぼ同じ面積で、村としては日本一。その 90%が森林であったが、幕府管轄の十津川郷土として武士道に励み、御門の狩人（京都御所）としての役割を担ってきた。明治時代に入っても、これを誇りに貧しい生活に耐え抜いていた。林業と農業で生計を立てるが、貧しさのあまり課税を免れた時代もあったという。

十津川村の水害悲劇

126 年前の 1889 年（明治 22 年）8 月。紀伊半島を中心に 17 日から降り始めた雨は、2 日たっても一向にやむ気配を見せなかった。それどころか、19 日夜には雷鳴を伴ったバケツをひっくり返すような豪雨が襲い、急峻な山に囲まれた奈良県十津川郷 6 ヶ村では、20 日朝までにいたる所で山腹が崩れ、川は決壊して集落を飲み込んだ。流出家屋 426 戸、死者・不明者 202 人の大災害となった。

6 村民で合同慰霊祭を行い、天皇・皇后両陛下から見舞金を賜った。奈良県知事からも見舞金が出た。しかし、悲劇的な結果から、村民は決断を迫られていた。

移住先へと進む

壊滅的な「山津波」で生活の場を奪われた住民 2,500 人は、集団離村を決断する。移住先として、ハワイ・岩手県などが候補にあがったが、奈良県知事が友人の永山武四郎に依頼して、移住地、条件、費用（3 年間の生活補助など）の面から北海道を候補地として探した。その結果、肥沃な地として石狩川の原始林地帯である雨竜、樺太、空知の 3 地区が提案され、県の説明会后に、604 戸、2,691 人が移住の申し込みを行なった。

移住の決意・決行

当時、北海道開拓を進めていた政府の後押しもあり、札幌から北へ 90Km の地、空知を第一候補として選定した。

早速、村の代表者が派遣され、現地を見聞したうえ、石狩川の氾濫に備えて高台（ルーク）の地を選択し、了承を取り付けて村へ戻り報告した。ここが新十津川村と命名されることになる。

明治 22 年 9 月 24 日神戸港から第 1 団として 200 戸、795 人が、そして第 2 団、第 3 団が新十津川村へと移住した。

移住先となった「北海道空知管内新十津川村」の村名には、遠い古里への望郷の思いが刻まれている。その後、村は町になったが、新十津川町民は奈良県十津川村を今も「母村」と呼んでいる。

前東家の系図

常松→長男（没）
次男 磯一（没）→孫 永雄（没）→曾孫 正次
三男 政太郎（没）→孫 豊（私）
四男 計男（没）

前東家の移住

多くは集団移住したが、前東常松は、いったん和歌山県高野山の麓（伊都郡）に移住して小作農を営む。しかし生活は貧しく、先に新十津川村へ移住した知人をたよって、明治 39 年に再度移住した。村の一番奥深い土地を与えられたが、農業には適さない土地であったため、その地で長く農業を続けることはできなかった。

前東常松の子供は 4 人の男子であったが、長男は病死し、残る 3 人は各々独立して新十津川町に別れを告げた。

次男 磯一は、新十津川町近隣の砂川町（現在の砂川市）にある三井農林で働く。その長男の永雄は、三井物産商社マンから転身して岩手県で起業する。永雄は、前東計男の甥にあたるが、後に東亜電波工業㈱が財政的に苦難を強いられたときに資金繰りの支援をしている。

三男 政太郎は、三井農林に一時関係していたが、その後、北海道東部の斜里町来運（斜里岳の麓）で農業開拓にあたる。（私 豊は政太郎の四男）

四男 計男は、郵便局長になり、北見、紋別、斜里、再び新十津川町と転勤を繰り返したが、当時札幌にあった通信講習所を出ていたため、大正 6 年、郵便局本省の事務員に採用され、憧れだった上京を果たすことになる。その後、昭和 19 年に東亜電波工業㈱を創業した（現在東証一部電機・東亜 DKK）

感想

以前私は、十津川村と新十津川町を訪ねた。十津川村は度重なる土砂崩れによって前東家の跡は 70m の川底になり、以前の十津川村も現在はダムの中となり、悲劇的な運命すら感じられる。

過酷な自然の中で、貧しくも逞しく生き抜いた先人・先祖、そして厳格な父の背中を見て育った私は、その原点がまさに両村にあり、今の自分があることに感謝しなければならない。今回、前東家のルーツをたどってみて、改めてその思いを強く抱かされることになった。

（記述引用）

NHK 番組（ファミリーヒストリースペシャル版）平成 27 年 3 月 20 日放映
北海道新聞（明治 22 年水害で奈良から新十津川に）平成 23 年 4 月 17 日発行
北海道新聞（奈良で土砂崩れダム）（卓上四季）平成 23 年 9 月 6 日発行
（コタンの人・新十津川村移住覚書）著者：上野凌弘
（私の上京と青春時代）ほか 著者：前東計男
（広野の旅人・新十津川） 著者：川村たかし



墓終い

木村 いく子

なったことかと顧みると今もって汗と感謝の思いがこみあげてくる。

母は生まれ育った斜里の地が大好きで独居が難しくなった晩年も斜里岳が見えるからと「青葉の家」に入居できたことをことのほか喜んでいた。同居を望む娘もいたが「ここからもお墓からも晴れた日は斜里岳が見えるから。ま、そのうち父さんと一緒に眺めることになるわ」と自身の病気や介護問題を見据えながらも斜里で没することを望んでいた。

葬儀の後、遺骨はオホーツク霊園に納骨し、父母の位牌は長女である私が預かり、主人の父母の仏壇の脇に小さな厨子を求めて祀ることとなった。主人の家は真言宗であり、実家は曹洞宗であったがこの際「仏教上、お釈迦様はただ一人、教えも根本は一つ」と私の勝手な解釈で我が家では真言宗のお経をいただくこととした。

1周忌、3回忌までは母をしのび、故郷でそれぞれが懐かしい顔に会う機会であったのが7回忌を迎えるころから墓の継承をどうするかが姉妹間で話題になるようになった。

地元で暮らす末妹も婚家の墓守のため、そうそう世話もかけられず「母の13回忌を終えたら父母の永代供養を兼ねて墓終いをしよう」とのことになった。

ところがである、一人が脳梗塞にみまわれ、一人は骨折やら怪我の手術、長女たる私は持病である気管支拡張症が年々悪化し「老化と健康不安」をじわじわと感じ始めることに。

実家の墓終いを終えてきた。今は少なくなった親戚と縁故の方がた宛にせっせと同封する手紙をつづっている。パソコンなる文明の利器により挨拶状そのものは1時間で完成したが、それを封筒にポンと入れて郵送できないのが多々ある私の欠点の一つである。

母の弟妹は5人、故人となった兄弟の連れ合いを入れると8人、その他、母が可愛がっていた父方のいとこ、書道でお世話になった方々等最低でも20通を墓終いに至った経緯と近況にご無沙汰を詫びながら個々宛につづるとなると・・・胸の片隅を叔父叔母が少々ボケてきてくれればと願う気持ちが通り過ぎてゆく。母の弟妹は今でも元気すぎるのだ。

母は平成20年の秋、「ちょっと気持ちが悪いし胸が少し苦しい気がするから」と救急車を呼んでもらい、住んでいた「青葉の家」から乗って行った救急車の中で意識が無くなったまま、1時間後苦しむこともなく旅立ってしまった。84歳だった。

本人は死を迎える準備もなく、それぞれに離れて暮らしていた4人の娘たちはスワと駆けつけたものの、葬儀を始め遺品の片づけ等、どたばたウロウロ、何人の方々にどれほどお世話に

誰が言い出すでもなく「4人元気なうちにやっちゃおうか?」「そうそう4人揃ううちにね」

「この世界非常時にまた海外へ行っちゃう人もいるし・・・」「性懲りもなくまた入院したって?」「仕事、仕事って2日間くらい休めるでしょ?」さてさてオバサン姉妹とは遠慮ないものである。

手分けしての情報収集が始まり、永代供養とはどうするのか、墓石や墓地は?費用は?

実家の墓所は北見の石材店で建立したのでその時の資料を基に見積もりを依頼したり・・・

インターネットは玉石混交ではあるがいかにか多量の情報が得られることを改めて感じ、ふるさとの友人・地縁を頼り、地方や檀那寺によってかなり費用に差があることや宗派によって納骨形態や位牌の扱いが異なることもわかった。

結果、航空機とJRが夏場運賃にならないうちに、斜里の天気が安定する時期に、檀家の盆や秋彼岸詣りが始まらないうちにと7月初めの平日、前後3日を当てることになった。

これだけでユウに2か月を要したのである。

母の独居が無理になった時点で実家をたたんだため、墓終いの期間はホテルを利用することとした。これも観光シーズンを避けた理由の1つなのだが徐々に4姉妹べちゃくちやと喋るためには大部屋が必要とあり、同日に団体を受けているという同級生の

宿に無理を願い、後は当日、急な仏事が入らないことと雨天にならぬことを祈るばかりだった。

当日、ご住職の急な都合で墓前での御霊抜きの儀が2時間繰り上がったものの天気に恵まれ、私たち姉妹と畑から駆け付けた甥が出席して墓終いが無事終わった。

母が終の棲家にと、夫婦だけには立派すぎる?墓所を建立したため当初の見積りよりも3分の1上回った撤去費用がかかったというおまけまで付いたが。

カロートから出された父母の骨はその後一つにして菩提寺の永代供養墓に納めることができた。



その夜は母が好きだった寿司を食べに行った。「母さんは何が好きだったっけ?」と誰かが聞いた。ひとしきり、

鮪だ、ホタテだ、エビだったと口々にそれぞれが思い出した。その時「内地でエビは茹でるのかい？」と聞いた母の声を私は思い出した。あの時、私は何と答えたのだろうか。母が逝って8年が過ぎる。墓終いで「心の拠り所が無くなった気がする」と言った妹がいる。けれど父も母もこの永代墓に居る。今後子孫が共に眠ることも可能とご住職に伺った。

私は・・・可愛くてたまらぬ自閉っこの孫がたまには来てくれるであろう近くの墓で良い。

しかし、本当は私も斜里が良いのだ。母が終生愛した斜里岳、オホーツクの海、山裾に広がる林や畑。吹雪でさえも懐かしく思う年になったのである。

万事合理的な息子も娘も「何を今さら」と言うであろう。

だから末妹には言っている。「私が死んだらお葬式には絶対来てよ！ そして遺灰をちょっとだけで良いから持って帰ってあんたんちの畑に撒いてよ。熊の出てる山の畑にね」と。毎年、進んであの畑で人参の草取りやら、芋堀の手伝いをしているのだから。このことだけは息子にも娘にも伝えてある。

いつ死が訪れるかわからない時代であり、わが年である。

パソコンの中の遺言ファイルは随時更新中。やり残した断捨離、最低限の連絡先、形見分けと少ないへそくりの行き先などなど。ただしパスワードは今のところ内緒である。





2016.09.23

第9回オホーツクふるさと会連合会 ボウリング大会に優勝して

東京ふるさと斜里会 顧問 佐藤禎伸

暑い夏の日 7/9日（土）東京ポートボウルで行われました「オホーツクふるさと会連合会親睦ボウリング大会」に参加し、スコアはあまり良くなかったのですが 125 名中で個人優勝をいたしました。

“ボウリング“につきましては30代のころ米国に上司と出張した時、この上司がボウリング好きで上手くて何度やっても勝てませんでした。これがボウリングを始めたきっかけで、上司に負けた反動で日本に帰ってからはこの上司に負けまいと頑張り毎週のように会社の帰りに練習をしたもので、やっと勝てるころには池袋にある“ハタボウル”で毎月の大会で優勝できるようになりました。また、東京タワーボウリング場では中山律子プロ・並木恵美子プロ・故須田開代子プロなどと一緒に練習をしたこともあり、アマ・プロ大会と一緒に投げたこともありました。 たまたま自宅がボウリング場のすぐそばで何かの大会があると出かけてよく投げたものです。 その為かかなりの成績に達し、東京都アマボウリング代表選手(選手は年間 120 ゲーム投げてAV175 以上)に選ばれ全国の大会を歩いたものです。 当時はボウリングの費用も高く家内からは「いいかげんに辞めて頂戴！」と小言を言われたもので、大会でTVにでたのを最後に辞めてしまいました。しかし、若いころに身についたものは忘れないもので今でも高齢者なのにボウリングについては何か機会があると出かけて行き楽しむことに心がけています。

この大会は故宮武会長より斜里会も何度も参加するよう呼びかけられており、1 昨年(第7回)初めて参加して成績はまあまあでしたが7位入賞美酒「獺祭」1 升瓶をいただきました。昨年は副会長三宅・事務局長土橋・土橋夫人・私の4 名が参加し、チーム優勝をめざしたのですが私個人の成績が振るわず皆さんの足を引っ張ってしまいました。 しかし他の3名の成績がすばらしく(3名の合計点で決める)チームは準優勝に輝き、“本来ならばチーム優勝が出来たのにと・・・”

言われ苦いお酒を飲んだものです。 特に三宅副会長はスピードのある素晴らしいボールを投げ、土橋事務局長はコントロールが良く並木プロがべたほめするほどの腕前で今年はチーム優勝を目指しましたが、今回は同じメンバー(土橋

夫人は欠3人の成績が揃わず残念な結果に終わってしまいました。
この「オホーツクふるさと会連合会」は当時の衆議員議員「武部 勤氏」が初めてのころ会長をやっており、オホーツク海に面したふるさと会をまとめ上げ並木 恵美子女子プロの協力を得て毎回大会に参加をして指導している大会でかなりレベルの高い（200アップは当たり前）選手もおります。また、各ふるさと会（網走、女満別、北見、・・・など多数）からは2～3チーム編成して参加しており、毎回各チームから沢山の商品が寄付され、ボウリングの終わった後の会食は本当に賑やかなものです。ボウリングは年令・男女問わず楽しめるので斜里会もこれからもっとチームを増やして次回こそチーム・個人共に優勝を獲得するように頑張りたいと思っております。
この記事を読んで次回から参加して見たいという気持ちの方は是非事務局長の土橋まで申し出ていただきたい。

*****事務局からのお知らせ*****



今回 Vol.21 2016 会報しゃり岳の発行に際し、8名の方にご投稿いただきました。
ご協力に感謝申し上げます。また来年度の会報しゃり岳に“投稿を希望”される方は事務局（土橋幸博 080-3080-6836）にご連絡ください。
原稿は電子データ(Word)A4-1～2ページ、顔写真(jpg)付き。なお、紙面の編集上、次年度に繰り上げさせていただく場合がありますのでご了承ください。